

29【P1】Ⅱ-012

食品成分と *Helicobacter pylori* 除菌剤との併用による相乗効果の検討

○山崎 直樹¹, 増田 英樹¹, 古郡 三千代¹, 増田 修一¹, 木苗 直秀¹ (静岡県大院士健研)

【目的】わが国において *Helicobacter pylori* (*H.pylori*)は、中高年層を中心に高い割合で感染が確認されており、胃炎、消化器系潰瘍、胃がんなどの発症や再発因子の1つとして考えられている。現在、除菌には Amoxicillin(AMPC)、Clarithromycin(CAM)、Lansoprazole(LPZ)を用いた 3 剤併用療法が推奨されている。しかし、除菌による副作用や耐性菌の出現などが生じている。そこで我々は *H.pylori* に有効である沢ワサビ (*Wasabia japonica Matsumura*)を中心として、食品と薬剤を併用させることにより、より少ない用量で薬剤の治療効果を上げることを目的として実験を行った。

【方法】沢ワサビの葉をジエチルエーテルで抽出後、エチルアルコールに溶解し試験に用いた。抗菌試験は日本化学療法学会標準法の微量液体希釈による MIC 測定法(微量液体希釈法)に準じ操作し、MBC を算出した。なお、沢ワサビ抽出物や allyl isothiocyanate(AITC)は単独では抗菌性を示さない濃度に調製した。菌株として NCTC11637(標準株)、YS27(十二指腸潰瘍由来株)、YS50(胃がん由来株)を使用し、37°C、5%CO₂ インキュベーター内で 3 日間培養した。

【結果・考察】沢ワサビ抽出物の MIC と MBC は 0.625g/ml、AITC の MIC と MBC は 4μl/ml と確認した。プロトンポンプ阻害剤である LPZ では抗菌性、相乗効果が認められなかったが、AMPC や CAM にワサビ成分を加えることで抗菌性の相乗効果が認められた。特に CAM では薬剤単独での MIC と MBC に対して、薬剤にワサビ成分を加えた場合の MIC と MBC を比較すると、ワサビ成分を加えることで CAM 量を 3/4 減じても、抗菌性を示すことがいずれの菌株においても確認された。現在、沢ワサビの抗菌性成分の同定、緑茶を含む食品成分と薬剤との相乗効果を検討している。